

# 1 はじめに

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（令和3年1月26日答申中央教育審議会答申）には、次のとおり記されています。

- ・ 1人1台の端末環境を生かし、端末を日常的に活用することで、ICTの活用が特別なことではなく「当たり前」のこととなるようにするとともに、ICTにより現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化することが必要である。
- ・ ICTを「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活用できる環境を整え、日常的に活用することにより、児童生徒がICTを「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に生かしていくべきである。

愛知県義務教育問題研究協議会では、令和2年度から、「ICT機器を活用した教育活動の在り方」を協議題として調査研究に取り組んできました。2年目となる今年度は、GIGAスクール構想の実現により1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークの一体的整備が進められたことを受け、1人1台端末に焦点を当て、その有効的な使い方について、引き続き調査研究に取り組んできました。

文部科学省は、「GIGAスクール構想の実現へ」において、次のようにうたっています。

- ・ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。
- ・ 全員が同時に同じ内容を学習するという環境から、各人が同時に別々の内容を学習できる、個々人の学習履歴を記録することができる、各自の考えを即座に共有し、多様な意見にも即時に触れられるといった、学びの転換を実現できる。

ここに記載した「1人1台端末の有効的な使い方」事例集は、1人1台端末を活用して教科の学びを深め、学びをつなぎ、主体的・対話的で深い学びの実現に生かしていきたいと考えたものです。学校現場の先生方に参考としていただくとともに、この事例をもとにさらに有効的な使い方が実践され、県内全ての子供たちの可能性を引き出すことができるよう期待をしています。